

令和元年度 学校経営計画に対する中間報告書

石川県立羽咋工業高等学校

重点目標	具体的取組	達成度判断基準	集計結果	分析(成果と課題)及び後期の扱い(改善策等)
1 生徒全員の進路実現のため、全教職員が、ICT活用や主体的・対話的で深い学びの推進等を掲げた本校の学習指導方針(スクールポリシー)のもと、学力スタンダード等を活用して、個人として教科としての授業改善を実践するとともに、資格取得を奨励し、生徒の学力向上に努める。	① 思考力・表現力・コミュニケーション力の向上のため、ICT機器を効果的に活用し、「主体的・対話的で深い学び」を主とした互観授業や公開授業・研究授業に取り組む。	授業改善に向けた互観授業や公開授業、研究授業等を年間3回以上取り組んだ教員の割合が A 80%以上 B 65%以上 C 50%以上 D 50%未満	1学期に実施した人数(教諭・講師30名) 2回以上 4人 (13%) 1回 11人 (38%) 0回 15人 (49%) 評価: D	授業改善に向けた互観授業や公開授業、研究授業などの取り組みをおこなってきたが、2回以上実施した人数が4名(13%)と前年度同期の9名(31%)と比較すると落ち込みが激しいことが挙げられる。1学期の授業時数は57日(昨年度60日)あったものの長期の連休など条件が合わなかった部分もあり満足のいく実施率となっていない。2学期以降は今まで以上に積極的に働きかけをおこない更なる授業改善に向け取り組んでいきたい。
	② 学力向上を図るために、教科の宿題やレポートの出題方法と回数を工夫するとともに、授業と資格取得の補習指導を通して、家庭等での自学自習する習慣を身に付けさせる。	宿題・レポート・資格取得などの自学自習について A 十分取り組むことができた B おおむね取り組むことができた C あまり取り組むことができなかった D 全く取り組むことができなかった	生徒対象に 6月末にアンケート調査 A: 40% B: 50% C: 9% D: 1% 評価: A・B合わせて90%	おおむね、十分取り組むことができたと回答した生徒が90%となり、前年同期の84%と比較すると人数にして20名強の増加があった。資格取得では意識の高い生徒が数多くおり、前向きに取り組んでいることがうかがえるのではないかと。しかし、学習状況アンケートより1時間未満の学習時間が約40%とかなり多い。今後も、資格取得も含め家庭学習の習慣化が成され学力向上につながるよう働きかけを継続していきたい。
	③ 毎月、図書便りを発行し全教員の「お薦めの本」を紹介するとともに、「読書週間」などの読書運動を全校的に行い、読書の習慣を身に付けさせる。	個人的な読書、授業や課題研究等の学習で、図書館の書籍を A おおいに利用している B ある程度利用している C あまり利用していない D 全く利用していない	生徒対象に 7月にアンケート調査 A: 32% B: 23% C: 26% D: 19% A・Bあわせて55%	昨年同期44%(昨年後期60%)と比較すると11%の増加が見込まれた。各学年による「読書週間」や図書委員会の日頃の活動が良い結果につながっているのではないかと。その反面、全く利用していない生徒も19%(70名程度)となかなか活動が浸透していない部分も多い。今後は、各教科等にも協力をあおぎ読書の習慣が身に付くよう継続して取り組んでいきたい。
	④ 資格・検定取得の説明機会を増やして受験を奨励するとともに、課外補習を充実させ合格者数を増加させる。	1月末での資格・検定試験延べ合格者数が学校全体で A 800人以上 B 700人以上 C 550人以上 D 550人未満	8月末の資格・検定試験合格者数を検証 8月末現在では319人 B評価(700人)に対する達成率46%	現在の取得者合計は昨年度同期(344人)と比較して、25名減少している。各種資格、検定試験のため奨励・補習を行ったが、成果とはならなかった。今後も「資格・検定のすすめ」を利用して、資格検定受験の意欲を高め、工業科を中心に受験の呼びかけによる受験奨励や補習の充実を行い、目標の達成に向け取り組んでいきたい。
	⑤ ジュニアマイスター顕彰のゴールド特別表彰およびゴールド・シルバー・ブロンズの取得を目指し、学校全体で多くの資格・検定への挑戦意識を高めて認定者数を増加させる。	ジュニアマイスター顕彰ゴールドおよびシルバーの認定者数が学校全体で A 80人以上 B 65人以上 C 50人以上 D 50人未満	前期(7月)の申請者数を検証 前期認定者数25人 B評価(65人)に対する達成率38%	前期認定者数25名(ゴールド14名、シルバー11名)の内、3年生が24名、2年生が1名である。3年生のゴールド+シルバーの取得率は、電子機械科75%(2年次で63%)、電気科70%(同63%)及び建設造形科10%(同5%)である。後期に向けて、2学期は、資格・検定試験の機会も増える。「資格・検定のすすめ」を利用しながら、2年生を中心に、取得率が上がるように生徒に資格取得を働きかけ認定者数の増加を目指したい。また、難易度の高い資格・検定の受験を奨励したい。
	⑥ インターンシップや地元企業説明会等により適切な進路選択を促進させるとともに、進路説明会やLHなどで進路に向けた情報提供を行なう。	各種進路指導行事・LHなどによる説明や進路情報により、意識が A たいへん高まった B ある程度高まった C あまり変わらない D 全く変わらない	生徒対象に 7月にアンケート調査 A: 53% B: 43% C: 3% D: 1% 評価: A・Bあわせて96%	生徒対象のアンケート結果は、A・B合わせて96%となり、判定基準をクリアしている。前年度と同様に非常に高い結果となった。求人件数も8月現在すでに昨年度以上となり、今年度も2・3年生共に就職希望者の割合は非常に高い。10月には2年生のインターンシップも控えており、意識はより高まると予想される。2学期末には「地元企業を知る会」、3学期末には「先輩と語る会」や「地元企業見学会」も計画している。今後も時期に見合った進路指導を行い、生徒の進路意識を高めていきたい。
	⑦ 進路希望の達成のために指導の充実を図る。基礎学力の定着を図ると共に、授業でコミュニケーション力を付けさせる工夫を行う。外部講師による講演や面接指導、全教員による個別面談・指導を充実させる。	朝学習や日頃の学習、面接指導などにより、基礎学力やコミュニケーション力が A たいへんついた B ある程度ついた C あまりつかなかった D 全くつかなかった	3年生を対象に 7月にアンケート調査 A: 46% B: 48% C: 6% D: 0% 評価: A・Bあわせて94%	生徒対象のアンケート結果は、A・B合わせて94%となり、判定基準をクリアしている。前年度同期から2%増となり高い結果となっている。朝学習においても就職者用の問題集を一部変更するなど進路希望に応じた学習に取り組んでおり、習慣化している。9月中旬より就職試験が始まり、進学希望者への対応も始まる。3年生の就職・進学の進路実現に向けて、面接指導等を全教員の協力の下で取り組んでいきたい。
学校関係者評価委員会の評価		○生徒の自己評価のみで評価しているものがあるが、項目によっては他の観点も必要ではないか。 ○資格・検定取得に関して効果を上げている。補習など先生方が一生懸命になっている様子が覗える。 ○地元就職する子が多い。地域に残り、地域に貢献する生徒を育ててくれるのは大変ありがたい。これからも地元で恩返しをできるような人材を育てて欲しい。		
学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善策		○評価方法は生徒の自己評価に加え、保護者や教員からの評価も行っており、総合的に判断していく。 ○2学期、3学期には「インターンシップ」、「地元企業を知る会」、「先輩と語る会」、「地元企業見学会」を計画しており、さらに産学連携、産業連携など地元企業との連携事業発展させていく。また、地区懇談会や保護者懇談会で保護者にも地元企業の良さを説明していく。		

重点目標	具体的取組	達成度判断基準	集計結果	分析(成果と課題)及び後期の扱い(改善策等)	
2	心身ともに健康で逞しい(タフな)人づくりを目指し、部活動や生徒会活動の活性化に努めるとともに、規範意識を高め、いじめを見逃さない学校づくりに努める。	① 県高校総体・新入大会で団体・個人とも上位入賞を目指し、高体連表彰闘賞を獲得する。	県高校総体の総合得点が A 75点以上 B 60点以上 C 50点以上 D 50点未満	県総体6月末集計結果 74.5点 男子60.5点 7位 女子14.0点 32位 評価：B	6月末までの県高校総体の総合得点は、74.5点で15位である。(昨年同期は75.5点で16位)判定基準はAからB評価へと後退したが、ヨット部男女の優勝、弓道部・剣道部の男子団体準優勝、ソフトテニス部・卓球部・バスケットボール部がベスト8となり、多くの得点を獲得した。 今後ラグビー部の得点結果を待ち、昨年の得点を上回りたい。そして、4年連続の取組賞獲得を期待したい。
		② 文化部の重複加入を奨励し、各部の取組に、生徒が積極的に活動し、より良い成果を収める。	文化部の活動と成果に満足しているか A たいへん満足している B おおむね満足している C あまり満足していない D まったく満足していない	生徒対象に 7月にアンケート調査 A：52% B：37% C：7% D：4% 評価：A・B合わせて89%	文化部加入者対象アンケートの結果は、A・B合わせて89%と前年度同期から少し数値が下がったが、ほぼ同数の高い結果となった。(昨年は、91%) 今年度は写真部の全国高校総文への作品出品や、コンピュータ部の全国ソーラーラジコンコンテストin白山への出場などが目立っている。 9月末に行われる羽工祭が、文化部の活動発表の場となるよう指導していきたい。
		③ 生徒会を中心にして行事への参画意識を高め、生徒が自主的に活動する行事にする。	生徒会行事に満足しているか A たいへん満足している B おおむね満足している C あまり満足していない D まったく満足していない	生徒対象に 7月にアンケート調査 A：47% B：49% C：3% D：1% 評価：A・B合わせて96%	生徒対象アンケートの結果、A・B合わせて96%と前年度同期とほぼ同数の高い結果となっている。(昨年は、95%) 2学期以降も多くの生徒会行事が予定されている。特に9月末の羽工祭では全校生徒が満足できるものになるよう、計画的に準備をするように生徒会執行部を指導していきたい。
		④ 規則やマナーを守り、思いやりの心を育むため、生徒への声かけを増やし、生徒との相互理解を深めるとともに、規範意識を向上させる。	本校の教育活動や規範意識向上の取組により、規範意識やいじめ防止の意識が身についたか A 十分身についた B 少し少し身についた C あまり身につけていない D 全く身につけていない	生徒対象に 7月にアンケート調査 A：72% B：27% C：1% D：0% 評価：A・B合わせて99%	生徒対象アンケートの結果、A・B合わせて99%と非常に高い結果となり、判定基準を大きく上回った。朝のあいさつ運動や校内巡視を毎日行って、生徒に声かけをしている。また、規範意識向上のため、通学自転車の施錠の徹底と校内におけるスマホ(携帯電話)の使用禁止の徹底を図った。これらの様々な取組の中で、生徒の規範意識が高まったものと考えられる。今後も生徒の意識向上に向けて日々の取組を進めていきたい。
		⑤ 保健だよりや集会、SH等を利用して、生徒の心身の健康管理についての意識の高揚をはかる。	自分自身の心と体の健康管理について、日頃から意識して生活しているか A 常に意識している B ある程度意識している C あまり意識していない D まったく意識していない	生徒対象に 7月にアンケート調査 A：46% B：45% C：6% D：3% 評価：A・B合わせて91%	生徒対象アンケートの結果、A・B合わせて91%と前年度同期と同数の高い結果となった。 今年度は暑い日が多く熱中症に対する注意喚起を日頃から行っていたことも高い数字となった要因と考えられる。2学期以降についても残暑の厳しい時期も考えられ、また冬季にはインフルエンザの流行も予想されるので、日頃からの健康管理について更なる意識の向上に取り組んでいきたい。
3	社会貢献や環境に対する意識を高めるため、工業学習成果の提供やボランティア活動等を積極的に行い、地域社会との連携を深める。	① 社会に貢献する大切さや必要性を認識するために、地域ボランティア活動や校外での一日一善運動を推奨する。	地域ボランティア活動や一日一善運動を通して社会貢献の大切さを理解しているか A 十分理解している B ある程度理解している C あまり理解していない D 全く理解していない	生徒対象に 7月にアンケート調査 A：58% B：38% C：3% D：1% 評価：A・B合わせて96%	生徒対象アンケートの結果、A・B合わせて96%と前年同期と同数の高い結果となった。 例年行っている「一日一善運動」や「ボランティア清掃」の生徒の取り組み状況から、社会貢献の大切さを十分理解していることが確認できる。 今後は社会貢献活動を日々の生活の中で、自ら主体的に実践できる力を身に付けさせるように育てていきたい。
		② 環境保全のこれまでの取組を向上させ、ゴミ分別や環境保全が正しく行われているかを評価し、環境に対する意識の向上を目指す。	環境保全(ゴミの分別・節水・節電等)に取り組んでいる割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	生徒対象に 7月にアンケート調査 A：52% B：42% C：5% D：1% 評価：A・B合わせて94%	生徒対象アンケートの結果、A・B合わせて94%と前年度同期を少し上回る数の高い結果となった。今後も保健指導課の清掃活動や生徒会課の一日一善運動に加えて、生徒指導課の規範意識向上の取組等とも関連させながら、環境保全とともに環境美化について生徒の意識高揚と実践力を培っていきたい。
4	教職員が相互に業務を点検し、組織的で効率的な業務のあり方を探る。	① 校務分掌ごとに業務の重複を点検し、整理に努めることで、多忙化を改善する。	各分掌内の定期的な会議において、主管する行事や業務見直しの協議成果として A 改善を十分行えた。 B 改善をある程度行えた。 C 改善をあまり行えなかった。 D 改善を行えなかった。	職員対象に 7月にアンケート調査 A：13% B：69% C：15% D：3% 評価：A・B合わせて82%	職員対象のアンケートの結果、A・B合わせて82%が改善を行えたと回答した。働き方改革を進めていく上で、業務の見直しや作業の効率化を図ることは必要である。今後も各分掌内において協議をするとともに、多忙化改善に向けた取組を進めていきたい。特に、業務の平準化を考慮して、働き方改革を進めていきたい。
学校関係者評価委員会の評価		○雨の日の自転車傘差し運転など交通安全指導はどのようにしているか。自転車そのもののマナー指導やスタントマンを使った指導もある。駐輪の仕方も指導の余地がある。 ○子どもは楽しく学校へ行っている。嫌だと言ったことはない。学校全体としても不登校の生徒はいないのは、誰が中心となってどのような支援体制をとっているのか。 ○ホームページに「羽工だより」や「羽工新聞」がまだアップされていない。楽しみにしている人もいるので速やかな更新を期待する。 ○七尾地区には統廃合になった学校がある。卒業生としては何としても「羽工工業高校」の名前を存続させて欲しい。また、ラグビー部にはかつてのように花園に出場してもらいたい。			
学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善策		○規範意識週間・一日一善運動などの取り組みは継続し、良識のある生徒の育成をするとともに、地元企業と連携してこれからも地域に残り貢献する生徒を育てる。 ○ホームページの更新については指摘のあった「羽工だより」「羽工新聞」は即日アップした。今後もホームページの更新・充実を努める。 ○資格の取得や部活動など本校が誇れることは新聞等で取り上げてもらい、中学生や地元住民にアピールしていく。			